

第52回「ハートミーティング」意見交換の内容について

下水道事業PRプロジェクトチーム

★参加メンバーからの主な声

- 今後のチーム活動の進め方について、予算や権限がないからこそ、発想を変え、何でもできるとの市長の言葉に勇気づけられた。他局や他都市と様々な連携を図れるよう、そのような強みを活かして活動していきたい。
- 市長に私たちの話を和やかな雰囲気でも聞いていただき、また、興味を持って質問等を投げかけていただいたので、緊張がほぐれ、伝えたかったことを率直に話すことができた。とても有意義なハートミーティングであった。
- 我々の下水道事業PR活動の話を興味深く聞いていただくとともに、自分たちではなかなか方向性の見えなかった課題に対して、まさに一刀両断する助言で背中を押していただき、今後のチーム活動に活力を与えていただいた。来年度以降更に充実したPR活動を行ってきたい。
- 予算が無いから枠にはまらずに発案ができ、また、権限が無いから他部署との協働が必要となり、いろいろな意見が交換できるという、“無い”ことの優位性を市長から丁寧に説明していただき、感銘を受けた。
- 今後は直接市民の方の意見や、他都市から見た京都市のイメージなどを取り入れる場が必要だと感じた。幅広い視野を身に付け、質の高いPR活動を行ってきたい。
- 市長の経験から様々な話を聞かせていただき、考え方の幅が広がるような非常に貴重な経験をさせていただいた。
- 今後も積極的にチームとしてアイデアを出し合って活動していくために、とても良い刺激になった。

★市長からのコメント

- 皆さんのチームは素晴らしい活躍をされており、本日のハートミーティングを楽しみにしていた。
- 予算と権限があればその枠内でしか物事を考えられないが、それらがなければ、自分の頭で考え、熱意で周囲を説得して進める中で、無限大に可能性が広がるとも考えられる。
- 様々な部署との連携という観点で考えると、むしろ予算や権限は中途半端にならない方がいいのかもしれない。縦割りで考えず、横の繋がりを大事にしてほしい。
- 市民のため、未来のために頑張ることはいいが、同時に、それを市民に分かってもらうことも重要である。発信主義ではなく、到達主義のPRをお願いしたい。
- あらゆる事業の最大の戦略は広報である。一般的に、水は問題なく使えて、そして流れていって当たり前のように思われている中で大変だと思うが、いろいろと工夫を凝らしながら、今後も下水道のPRを頑張ってもらいたい。